

医療情報提供書

既往歴：特記事項なし

家族歴：母親が花粉症

症状経過：

10歳代より、花粉症（アレルギー検査ではスギ花粉およびヒノキ花粉が陽性）および気管支喘息のため毎年2月から5月にかけて医療が必要な状態。2021年も2月より鼻炎症状、目の掻痒、咳持続するため3月5日当院受診。

治療経過：

抗アレルギー薬内服、抗アレルギー点眼薬、ステロイド吸入薬投与にて治療開始。眼症状は改善するも、鼻炎症状は持続するため3月15日よりステロイド点鼻薬を併用。

特に鼻炎症状（アレルギー性鼻炎）は、鼻閉および鼻汁の出現回数より重症と診断。水泳競技を行うため、プールに含まれる塩素系消毒薬も鼻炎症状の増悪因子になっていると考えられる。

抗アレルギー薬の内服およびステロイド点鼻薬で加療していても、睡眠障害や集中力の欠如、また喘息発作が誘発されるなど、日常生活に支障をきたすほど重篤な症状が認められることがあり、その場合短期的にステロイド薬の経口投与が必要となる（特に花粉量が増加する3月下旬から4月上旬位かけて）。